

はしかみタイムズ



階上地域まちづくり振興協議会産業部会と宮城県漁業協同組合気仙沼地区支所は共催で7月23日海の日に海辺のゴミ拾いを行った。今回の活動は、「はしかみクリーンアップ大作戦」の第2弾として開催されたもので、海洋プラスチック問題の解決に向けて現在気仙沼市でも取り組みに入れている「プラスチック・スマート」キャンペーンの一環として行われた。

世界一きれいな海辺を目指し

クリーンアップ大作戦

今回の活動は、波路上漁港および森漁港周辺の海辺に沢山のゴミや漂着物が散見されることから地域ぐるみによる環境美化活動を推進し、地域住民の連帯を図ることを目的として開催された。実施場所は波路上漁港から森漁港までの間で、安全

に配慮しながら防潮堤の海側のゴミ拾いを行った。午前6時集合と朝早くの開始ながら予想を上回る44名もの方々に参加いただいた。はしかみクリーンアップ大作戦は昨年からは始まり、前回はお伊勢浜ライブフェスタ実行委員会と共催で岩井崎

及びお伊勢浜海水浴場周辺の観光地で実施した。今年は漁港周辺ということで漂着しているゴミも昨年とは大きく違い、発泡スチロールや漁具が多いように見受けられた。しかしながら、回収したゴミの中でもペットボトルがダントツに多いところは昨年同様だった。全体としては、昨年を上回る量のゴミを回収



し処分をした。

参加いただいた皆さんには今回のゴミ拾いを通じて、身近な海でも海洋プラスチックゴミ問題が深刻な現状であることが伝わったと思う。今後も場所を変えながら継続して活動していく予定。

【発行元】

階上地域まちづくり
振興協議会
会長 畠山 光夫
〒988-0222
気仙沼市長磯船原20
電話
090-8256-9799
HP
www.hashikami-mach
ikyoo.jp
公式LINEアカウントから友達と登録
お願いします



レッツ★サンドアート

JC企画

気仙沼青年会議所は、9月12日(土)午前10時からお伊勢浜海水浴場を会場に海洋保全学習を取り入れたビーチクリーンとサンドアート体験教室を行う。内容は、午前中にお伊勢浜海水浴場でビーチクリーンを実施して地域の海の海洋環境汚染問題への理解を深め、ビーチで昼食を取った後、午後は世界を舞台に活躍されているサンドアーティストの保坂俊彦氏を講師に砂と水だけで作品を作るサンドアートを体験してもらおう。また、保

坂氏のサンドアート作品は会場に展示される対象は、気仙沼市、南三陸町の小学生及びその保護者。応募方法は、各小学校を通じて配布されている参加募集案内の通りで左記の応募先にFAXまたは電話にて行う。募集期間は8月20日から9月2日までとなっており参加者は地域に偏りが出ないように地域ごとの抽選で決定する。応募先・お問合せ 一般社団法人 気仙沼青年会議所 まちづくり事業「Let's★サンドアート」係
電話 23-1311
FAX 25-8173

親子で塩づくり体験

福祉部会 シオ探検

階上地域まちづくり振興協議会福祉部会と気仙沼市階上観光協会が共催、気仙沼市水産試験場が協力して8月9日に岩井崎塩づくり体験館を会場に「シオ探検」を開催した。シオ探検は、新型コロナウイルス感染拡大により3月から臨時休校になり、長期間にわたりステイホームで思いつき外で遊ぶこともできず、夏休みも短縮され我慢している子供たちに塩づくりや岩井崎の探検を通して階上の歴史や豊かな資源を学んでもらうと同時に短い夏の思い出としてもらうために企画されたもの。当日はあいにくの雨で予定していた潮だまりでの磯遊びと磯の生物探索が中止となった。また、開催直前に市内でのコロナ感染者が出たこともあり参加者は少なかつた。それでも参加した親子は、岩井崎の海水を使用した塩づくり体験を、同体験館の石森さん指導のもと海水から塩ができる様子を楽しく体験した。暑い中、火を使い20分間ひたすら海水をかき混ぜる大変な作業ながらその変化に目を輝かせ塩が出来上がってくる様子に歓声をあげながら最後までがんばり美味しい天然塩を完成させることができた。出来上がった塩はみんなで味比べしたり量を比べたりして自然と会話も弾み笑顔が見られ参加者からはまた塩づくりしたいとの声が聞かれた。



塩づくりの様子



勉強会の様子

どのくらい伝わってる？

語り部部会 勉強会

語り部部会では、7月30日気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館を会場に、東北大学災害科学国際研究所の准教授で階上中学校の防災教育でもお世話になっている佐藤翔輔先生を講師に迎え「語り部ってどのくらい伝わってるの？」という内容で勉強会を開催した。前半は、昨年階上地区

う結果が。それは自身の安全確保より他の人を優先してとのことだった。事前の家族での話し合いや近所とのコミュニティがいかに重要か再確認した。今回の震災時における行動の調査結果は今後の防災・減災活動及び伝承活動に活用できるデータだと関心が向けられていた。

で震災に関する聞き込み調査を行なってきた東北大学大学院生の新家さんより研究結果についてリモートで発表頂いた。聞き取り調査でまとめた避難行動についてデータ化し分析する方法を開発しわかり易く説明を受けた。たくさん訓練してきたはずなのに発災直後に避難できていないという結果が。それは自身の安全確保より他の人を優先してとのことだった。事前の家族での話し合いや近所とのコミュニティがいかに重要か再確認した。今回の震災時における行動の調査結果は今後の防災・減災活動及び伝承活動に活用できるデータだと関心が向けられていた。

翔輔先生のお話では、様々な伝承手法を比較して、聞き手の心にどのように影響したか、記憶にどのくらい残ったかの調査結果が発表された。やはり人の生の語り部が伝わり易く記憶に残りやすいことがわかった。また、伝えたいメッセージや教訓はなかなか伝わりづらく、体験談や起きた事実はストーリー性があり印象・記憶に残ることがわかった。



中高生による語り部の様子

中学生の語り部活動について意識調査の結果、活動を通じて生徒たち自身にいい方向への変化がみられているとのこと。これまでやってきた伝承活動により新たな伝承の芽を生み出し良い形で動き出している。最後の意見交換でも多くの質問や意見が寄せられ活発で新たな気づきも多く実り多き勉強会になった。今後もテーマごとに数回に分けて継続して勉強会開催して行く予定。